

平成28年11月25日

議会報告会報告書

議会広報広聴特別委員会委員長 笠原 久恵 様

議会報告会 4班
班長 戸辺 滋
坂巻 儀一
石原 修治
加藤 啓子
根本 守
西川 誠之
小田桐 仙

私の班は議会報告会を開催し、その概要は下記のとおりでしたので、ご報告します。

記

- 1 日時 平成28年11月13日(日)
午後2時00分～午後4時00分
- 2 場所 生涯学習センター
- 3 欠席議員 なし
- 4 参加者数 14人(内、他班の議員5人、職員2人)
- 5 報告内容
その1「区画整理について」
(担当：小田桐委員)
・区画整理5地区の進捗率について

- ・ 保留地処分について
- ・ 区画整理に伴う小中学校の児童生徒数およびクラス数の増加について
- ・ 流山おおたかの森駅前市有地活用事業について

その2 「ベットタウンからリビングタウンへ」

(担当：根本委員長)

- ・ 流山市の現状、人口構成にみる今後の課題
- ・ 住み続けたくなるまちづくりの方途
- ・ リビングタウン流山の形成に向けて（実施例の紹介）

6 意見交換内容（要旨）

●松ヶ丘在住 男性

問)：区画整理の何が問題なのか、改めて端的に教えてほしい。財源が問題なのか？

答)：問題は3つある。1つ目は、市の5分の1もの面積を区画整理しているので、この区画整理の成否が他の場所にも影響を及ぼす。保留地を売ったお金で事業費を捻出しているので、保留地が売れないと困る。売れないと税金で補てんしていくことになる。2つ目は、少子・人口減少時代にTX沿線だけ人口が急増している。その他地域は高齢化となり2通りをやらなくてはならないから難しい。

3つ目は、どのような街にするのかが行政と議会と市民で共有化されていない。ここからは個人の意見だが、セントラルパークとえば緑の公園が続くかと思うと市有地があって、通常は緑が公園まで続くように街づくりをするはずなのに、市有地が緑を分断する形になっている。

問)：共有されていないということだが、共有する仕組みがないのか？

答)：仕組みは構築されていない。財源は新市街地区も最初は1

平米あたり 20 万円位で売ろうと思っていたが 15 万まで下がってしまった。

●向小金在住 男性

問)：共有方法として、どのようなものがあるのか？

答)：議会報告会や議会だより、個人チラシなどがある。

●松ヶ丘在住 女性

問)：保留地が売れないときに財政はどうなるのか？

答)：全体として考えているので、おたかの森だけとは思っていない。区画整理とは売り切れることで成り立っている。これからは行政任せではなく、皆さんも一緒に考えていただく必要が出て来ている。

●富士見台在住 男性

問)：流山市がイメージとしている住民像とは？常に母になる人が来る街と考えているのか？常に母になる人が来るなら、住み続けていたら高齢化してしまうから、矛盾していると考えるが？

答)：ベットタウンのままでいいのか？自分も 70 年住んでいる。住み続けるためには地域によって連携がとれるような活力ある街のイメージであると考える。

答)：若い人が出て行ってしまわず、亡くなるまでずっと住んでいたいと思うイメージであると考える。

問)：懸念するのは多摩ニュータウンのような街にならないかということで、住み続けたらその人の年齢と共に高齢化していく街になる。東京が活力あるのは、若い人たちが常に出入りしているからと考える。流山市も市内で移り住めるような街にするのか？

答)：「母になるなら、流山市。」というのは、今の市長の時のことで、市長が変われば変わる可能性はある。寝に帰る場所ではなく一度住んでいただいたらずっと住んでほしい。江戸川台等とは街の成長するスピードが違うので、一度出ても再び戻ってくるような街になるように考えている。

多摩ニュータウンのように、一気に入ってくると一気に高齢化する
るので、そこは考えながら街づくりをする必要がある。

答)：多様な世代が住み続けたい街にするためには、想定人口を
行政が20万人くらいであろうとしているので、5年後10年後
のことを考えながら計画する必要がある、おおたかの森だけでな
く地域性を活かしてバランスよく考える必要がある。

答)：私も42歳だが、友人達が流山市では一戸建てが買うのが難
しいので他市に移ってしまう。まずは流山市に郷土愛を持っても
らうことが大切と考える。北部や東部地区は高齢化していくので、
私たちもいろいろな提案をしながら努力していきたいと思う。

答)：流山市には、高齢者が持て余してきた住宅を子育て世代に
安く貸し出してマンションに移る等の高齢者住み替え支援制度
もあるので、もっと宣伝していく必要があると考える。

●松ヶ丘在住 女性

問)：おおたかの森は人口が増えすぎて、母親も孤立しているよ
うに感じる。学童も幼稚園も少なく、大変ではないか。

おおたかの森の子どもたち、母親たちの問題を考える必要がある。
人とふれあう文化が大切で、人口が増えれば良いということでは
ないと考えるがどうか？

答)：全議員が、その問題は同じように共有している

●富士見台在住 男性

問)：親元で暮らすのも良いとは思いますが同居は大変。空き家があ
るから親と同じ学区に住んだときは補助が出る等、近親者が近く
に住める政策を考えるべきでは？

答)：松戸や船橋ではリフォームする補助が出ている。流山市も
考えていく必要がある。美田や東初石4丁目では、子供に近くに
戻ってこないかというような声かけをしていると思うが、松戸や
船橋のように行政も一緒になって汗をかく必要があるのではない
か。

問)：区画整理事業のほうで保留地単価が下がったら、事業費が

減ったということか？

答)：減ってしまった分を国費等で補てんしている。

●美田在住 男性

問)：6回目の参加だが、今回取り上げたテーマが素晴らしい。しかし、学校の資料をみて愕然とした。小山小など特にかわいそう。校庭が狭くて様々な影響が出るのではないか？

また、人口推計が出来ていないと言ったことは、きちんと課題として取り上げるべき。おおたかの森小は素晴らしいが、増設できない作りになっている。この事態を議員はどう捉えているのか？

答)：9月議会の中で市長が「人口増加は想定外だった」と認めている。しかし、これからもマンションができる。いまだに「母になるなら、流山市。」で続けている。市でつくるマンションはOKで新市街地区の空き家にマンションがこれからもできる。我々議員もきちんと考えていかなければならない。

問)：平成34年はどうなるのか？重要な問題なので議会で質問してほしい。

答)：これからできるマンションについてはこの中に含まれていないので、議員も行政と丁丁発止しなくてはならない。

7 参加者から議会への要望（要旨）

- ・ 今後はいろいろな文化が組み合わさり、歴史を感じられる街づくりが良いと思っている。老人力を使っていただけの仕組みをつくってもらおうと良い。
- ・ 市役所の職員は丁寧な対応を。以前、前ヶ崎の通学路の件で署名を出したのに、ポールを数本立てただけ。これでは住みよい街とはならないのでは。また、古い校舎に対策が全くなされていないため、早期に取り組むべき。
- ・ 各種事業に地元業者をもっと活用すべき。雇用の問題も含め取り組んで頂きたい。

8 所感

<根本 守>

参加者と活発な意見交換ができ、有意義な報告会となった。

<西川 誠之>

大勢の方に参加いただき、活発な議論・意見交換が出来たと感じた。プレゼンターがベテランの小田桐議員と根本議員が配布した資料を基に熱弁をふるった。大変解り易い資料と説明内容であったと評価されたし、自分もそのように感じた。

質疑兼意見交換については、プレゼンターの熱意を感じられた参加者から活発なご意見・質問が出され、今回は初めて参加の方が多かったように感じたが、内容的には大変盛り上がったと感じた。勿論、全ての方がそうであったと言う訳にはいかないが「十人十色」、滔々と自論展開される方、総合判定で褒めていただいた方、不満を述べられた方など色々であったが、アンケートで気になったことが、

①流山市政に不満を持っている方の多くは、この会には参加していないだろう。

②周知しても関心を呼ぶほどには、議会報告会のことを知らない人が多いのでは・・・

③自分の意見・希望を実現するための財源を考えずに意見を言う人がいたが、議員の方も財源を含めて判断した基準を示してくれれば、有意義な討論となるのではないか・・・

今後の参考意見として記憶にとどめたい。

<小田桐 仙>

貴重な意見交換ができた。

<加藤 啓子>

議会は市民と相對している関係ではなく、市民の代弁者として執行部と事業調整していく役目を担っているということが議会報告会を重ねることにより市民側にも少しずつわかってきたよ

うな印象はある。そのためにもテーマの選定は大事で、今回の区画整理は小田桐議員のわかりやすい説明で保留地は売り切らなければならない、しかし、人が増えれば学校やインフラ整備にはお金がかかるといことが市民にも伝わったことを期待する。保留地販売で区画整理が進むがそれに伴う、学校の建設や保育所、学童の整備は市の予算で行わなければならない状況が私たち議員にとっても難しい課題として今後のしかかってくる状況である。人口が増えればいいと無計画に宣伝ばかりしたつげが静かに住み続けた市民の福祉財源にも影響を及ぼしている。それを市民の方がどこまで理解していただいたかは定かではないが、伝えられる機会を得、少しでも課題を共有できることが議会報告会の成果ではないかと考える。

また、根本議員のリビングタウンの提案はお越しいただいた市民の方にも大きく共感してくださった内容であり、流山市はベットタウンという位置から住みよいまちに変革していく政策を打ち出す時期になったと理解いただけただけのものとする。

今後はテーマをしぼり、現状を伝え、それに対しては意見をいただき、委員会ではどうまとめて執行部政策に意見していくかができていくとさらに議会報告会の意義が高まると思う。

また、議会は執行部の追認機関でもチェック機関でもなく、条例を制定する、政策を提言する機関であり、執行部はそれを執行する機関であることを私たち議員も認識し、切磋琢磨しながら公務にあたらなければならないと痛感している。

<石原 修治>

今回の議会報告会では、「ベットタウンからリビングタウンへ」「区画整理について」と、流山市の区画整理の現状と課題およびこれからの地域戦略についてと、今後の身近なテーマとして報告させて頂き、市民の方々から活発な意見や要望が出された。今後も市民との意見交換の場は、より開かれるべきと感じた。一個人の議員としては地域の課題、問題に取り組むのは当然のことながら、議会としてさらに多くの市民からの声を受け取ることも、開かれた議会には欠かせないことであると感じる。若

い世代の方々にも気軽に参加していただけるような議会報告会の開催を今後の課題としていきたい。

<坂巻 儀一>

動員を掛けずの開催で、参加人数に不安があったが、開会時には十数名が会場入りし、参加者一人ひとりの意見を万遍なくお聞きし、意見交換が出来たのは参加人数の多い少ないには其々の考えがあるにせよ、結果的には有意義な報告会であったと思える。毎回の事ながらテーマから逸脱した参加者の意見も暴走気味に出てきてしまう場面では今回司会を務めた私としては、その意見交換進行方法に課題を残した感が否めない。

しかしながら、テーマの選択にも参加者より賛同の意見も頂き、報告会後のアンケートを拝読しても、ポジティブな回答が多く見受けられた事に納得出来るに値する報告会であったと思う。

<戸辺 滋>

この度の議会報告会にて、初めて班長を務めさせて頂いた。しかし会場に到着してから、会場まで誘導する案内サインが不足していたことや、同会場で別イベントが開催されていたにも関わらず、議会報告会のチラシを持参して来なかった等、班長として準備段階での不備があった。反省すると共に、今回の教訓を次回以降につなげてまいりたい。

議会報告会の内容は、区画整理および今後の街づくりに関する内容で、アンケートを見ても分かるように参加された方からは概ね好評であった。質疑および意見交換会が活発に行われたのも、報告内容が非常に吟味されたものであったからと考える。さらに根本委員長、司会を務めた坂巻委員の配慮で、一つのテーマが終わるごとに質疑の時間を取ったことも、参加者の理解を深める一助となり、参加された方の視点に立った素晴らしい配慮であった。

また今回、初めて議会報告会に参加された方も多く見受けられた。このことを励みに今後、更に多くの方に参加して頂き、市政への関心を深めて頂く場となるよう努めてまいりたい。